

100%

大腿骨近位部骨折手術患者に対する早期リハビリテーション実施率

測定値の定義・計算方法

Process

分子： 分母のうち、手術当日から数えて4日以内にリハビリテーションを実施した患者数

分母： 大腿骨近位部骨折で手術を施行した退院患者数

活動のきっかけ

英国NICEの臨床ガイドラインにおいて、大腿骨近位部骨折の術後24時間以内の離床が、その後の機能予後に影響を及ぼすことが示唆されており、術後患者に対する早期リハビリテーションの介入が推奨されている。従って、術後患者に対して早期リハビリテーションを開始する体制の構築が必要であり、他病院とのベンチマークを行い、実施体制の構築に向けて取り組む必要がある。

改善活動部門

● リハビリテーション部

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
- 昨年度の件数は204件。 - 早期リハ実施率は、100%となり、目標値の95%は達成。 - 医師の診察から処方までの流れ、および、術後翌日からのリハ提供体制は構築できている。	- 早期介入の体制作りは構築されているが、早期介入の効果などについては課題を残している。 - 今後は、術後のせん妄や肺炎などの合併症発生率に対する早期リハ介入の効果や、身体機能やADL機能の予後に対する早期リハ介入の影響もモニタリングを予定している。